令和2年度第3回酒田市介護保険運営協議会 議事録

日 時：令和3年2月16日（火）午後1時30分～午後3時30分

場 所：酒田市役所中町庁舎6階 61号室

出席者：池田香委員、阿部建治委員、鎌田剛委員、奥山悟委員、阿部直善委員、後藤香委員
佐藤篤委員 以上7名

欠席者：佐藤道子委員、土門祐委員、佐藤千代樹委員

事務局：健康福祉部長、子ども・家庭支援調整監、福祉課長、健康課長、介護保険課長、介護保険課長補佐
介護保険課予防支援主査、予防支援主査兼係長、介護認定主査兼係長、事業管理主査、事業管理係長

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議

(1) 令和2年度酒田市介護保険事業実施状況について（資料1）

委員	P.8 特別養護老人ホームの待機者について。待機者713人のうち1か所のみ申込が453人、全体の63.5%となっている。特老に入る人はだいぶ具合が悪いと思われるし、家族の負担も大きいと思われる。自宅から近いところなど利便性を考えて1か所の申込となっているのかと思われるが、理由は何か。
事務局	こちらで捉えている上位待機者は200人を切る状況。1か所に申込の方は、緊急性の面では低いと思われる。いろいろな事情があると思われるが、グループホームや老健に入所されているということで今すぐでなくても、今後のことを考えて入所を希望されているか、介護度が3になると入所要件に合致するのでその段階になったら申込される人がいるのではないかとと思われる。今すぐに入所をという場合は何か所も申込されている。
委員	書面協議（回答）のNo.1 「チェックリストによる事業対象は週2回までの利用が可能」とあるが、介護保険課からの通知を見て、チェックリスト該当者は月5回＝週1回と理解していたが、要支援者がチェックリスト該当者になった場合は2回、一般的には週1回ではないのか。
事務局	要支援者がチェックリスト該当者となると週2回となる。
委員	それであれば、回答の週2回というのは一般論ではないと思われる。
委員	チェックリスト該当となれば、ケアマネジャーは週1回利用の認識で計画を立てるとと思われる。支援2からチェックリスト該当者となれば週2回で引き継がれることにはなるが、大方はチェックリスト＝週1回との認識のようだ。
委員	この回答については、再度検討をお願いします。
	P.4 要介護認定者介護度別割合について。酒田市、山形県、全国の割合で要介護1から要介護5までは2%くらいの差はあっても同じような傾向を示している。要支援の1と2だけ、特に要支援1だけが酒田市と山形県は多少似ているが全国とはずいぶん違うように見える。ちなみにチェックリストが始まる前の割合を前のページの平成26年以降の要支援の認定率を見ると、平成26年で要支援1、2合わせて24.4%、平成27年で23%、平成28年で22%、平成29年からチェックリストが入ってくるので少し下がる。全国では要支援1、2が28%、酒田市、山形県は20%でこの違いは何か。つまり、全国的にはチェックリストへの移行を熱心に取り組んでいない、酒田市は忠実に取り組んだということか。それがチェックリストではなく要支援1、2に回帰しているという状況について、今後これをどのように見ていくのか、少し解説が

あればお願いしたい。総合事業が始まった期間でもあり総括的にどうなのか。

事務局

全国と酒田市の介護度割合について。大都市圏では要支援1、2の介護度の低い方の割合が多い傾向にある。秋田県、山形県、東京都、大阪府、全国のデータから、東京、大阪は全国と同じような傾向、秋田、山形は資料にあるような傾向。高齢化率が高いほど介護度が重度化になる傾向にあるように見える。山形、秋田など高齢化率が高いところは重度化、介護度の高い人が多い。大都市圏は、これから高齢化率が高くなってくるが、まだそれほど高齢化率が高くないので要介護1以上の人の割合が高くない。それ以上の詳しい理由はわからない。

委員

酒田市は高齢化率が高くなっているから、要支援の率が下がるというわけか。

事務局

酒田市がということだけでなく、今後、全国の要支援1、2の割合が下がってくるのではないかと捉えている。

委員

全国の比率も以前はもっと要支援1、2は高かったということになるのか。

事務局

チェックリストに一生懸命に取り組んだ結果であり、ある程度の相関が見られるのは高齢化ということ。

(2) 第8期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画について（資料2）

委員

P.44 P.63 地域包括支援センターの体制強化について。包括支援センターの職員数を増やすわけではなく、単に内容を見直して再編するだけということか。

事務局

包括支援センターの職員体制については、職員配置等も含めた形で検討していく。併せて再編も検討していくので圏域が減ることも想定される。

委員

P.61 感染症に対する備えの4番目、通いの場における感染症防止対策とあり、マスク、検温はもちろん継続するだろうが、酒田市が推進しているDX化を踏まえて例えば通いの場にリモートやオンラインを導入するとか、来年度から国の財源を利用してコミセン等にWi-Fiや機材を購入するなどあってもよいのではと意見させてもらった。

事務局

来年度山形県の事業としてそういった内容のものを予定しているとのことで酒田市に打診があった。iPadを10台ほど貸し出しするとのことで、そういったものを使いながら検討していきたい。

委員

P.60 高齢者の住まいの確保について。市内に新型コロナウイルス感染症を理由に面会制限しているサービス付き高齢者住宅があり、ケアマネジャーも中に入れてもらえない。アセスメントするために面会をお願いしても理解してもらえない状況で、マネジメント業務にも支障が出ている。県からの指導になるのだろうが、なお酒田市からも状況を把握してもらいたい。

事務局

ただ今の委員からの話について、状況を伺っているので事業所には市側からも指導するようしたい。

議長	サービス付き高齢者住宅が増えると、空き家が増えることにつながるのか。
事務局	空き家が増えることもなくはないと考えているが、本市の介護サービス給付費にも影響が生じるのではないかと捉えている。
委員	P.64 各包括の職員数、別のページで就労的活動支援コーディネーター機能の強化、生活支援コーディネーターの強化と言っているにも関わらず職員の人数には含まれていない。体制を強化と言っていることから実態を正しく反映すべきではないかと資料見て感じた。生活支援コーディネーターについては、委託料の対象になっている人から除いているのか。また除いている理由は何か。
事務局	職員数については、包括の職員数とし、生活支援コーディネーターを除いた数になっている、あえて別枠にしている。
委員	先ほど委員からの体制の強化が必要との話のなかで増員するのか再編するのかとあったが、生活支援コーディネーターも業務に関わっているのではないかと。この数字を見ると、各事業所の努力で増やしているところもあるが、体制が弱そうに見えて再編だとの議論になりかねないのではないかと。
事務局	生活支援コーディネーターは、包括支援センターの中でこれからますます重要な役割を担うと考えるので、記載の仕方については再度検討したい。 体制強化の面でも就労的活動支援コーディネーターの部分も担ってもらいたいと考えている。委員からいただいた質問の回答（書面協議）の④について、令和3年度は、第一層の生活支援コーディネーターを中心に事業を進めていきたいと考えている。その後、第二層生活支援コーディネーターにどのように業務をお願いしていくか考えていきたい。後ほど予算の中で説明するが、体制強化ということで生活支援コーディネーターの委託料を増額する予定である。
委員	P.63 今後の日常生活圏域および地域包括支援センターのあり方について。「日常生活圏域の再設定」とあるが、日常生活圏域とは住民の行動範囲で決まってくるものであり、行政が日常生活圏域を再設定をするかのように見える。包括支援センターを再編成した際に守備範囲が変わるという意味なのはわかるが、行政側から生活圏域を決められるのではと誤解されないか。表現を考えてみてはどうか。 人材不足について。介護人材の育成や確保について各事業所の努力だけでなく、例えば北部定住自立圏など広域で仕組みをつくっていかないと2025年2040年を迎えられないのではないかと。第8期計画の中で組織的に取り組んでいく視点があってもいいのではないかと。 県では、県社協と奨学金制度を設けている。
委員	介護人材について。私どもの法人でも面接を行ったが来年度新規採用者、高校生はゼロであった。感染症の時期と重なったことや新規事業ということもあるのだろうが厳しい状況にある。外国の方も視野に入れながら今後のことを考えているが、介護の魅力を発信していくところでもある。今現在どれだけの人数がいて、今後どのくらいの人が必要とされているのかなど数値的なところも出していくと私たちも地域の中でも考え方が変わっていくのではないかと思うが、いかがか。
事務局	現在のところは、各事業所へ確認していないので数値はない。今現在、また、将来的な介護職員数の把握については、各事業所における介護サービス給付費の状況等とも合わせ、今後、調査方法等、対応を検討していきたい。

介護人材確保については一番の課題と捉えているが、先進地の事例を見てもすぐに取り入れられるものがなかなか無い状況で、現状においては、県で実施している事業と連携していくしかないものと考えている。併せて、事業所の協力も得ていきたいと考えている。

委員

P.62 人材確保について。5番目の広報や周知とあるがほとんど効き目がないと思う。一方、酒田は日本海ヘルスケアネットが10法人を巻き込んで、特に看護師の人事交流はすでにやられている。今後社会福祉も連携推進法人が出てくるので酒田市に医療連携推進法人があるので介護人材、福祉人材確保に関して社会福祉法人でも連携推進法人を積極的に導入されてはどうかと思うが、そういった議論は役所の中では出ていないのか。

事務局

日本海ヘルスケアネットに関しては10法人が参加されている。日本海病院、医師会、歯科医師会社会福祉法人はすでに連携されているところもある。社会福祉法人だけで連合するやり方も出てくるのかもしれないが、一定程度ヘルスケアネットという土台があるので、そこから広がりをもっていくということもあるのではないかと。各地域から見てもそこまで進んでいないが、今後機会を捉えて我々の方から提案していければと思う。

委員

社会福祉法人の連携推進法人については、いろいろと情報があるところ。現状は、社会福祉協議会が事務局となり、全部の法人が参加しているわけではないが、連絡会議を組織。社会福祉法人の地域貢献ということで公益的な事業を実施。令和2年度はコロナで実施が遅れたが、出前講座を実施している。連絡会議の場を使って今の人材の問題についても考えていくようにしていきたい。

委員

災害、感染症に対する備えについて。今福島で避難所での感染症対策に力を入れているが、一つの体育館に2,000人も集められるかなど現実的には厳しいと思われる。住民からは避難所を開設してほしいとの要望があるが、自主防災会の立場からすると自宅待機できる状況であればあえて避難しないこともあるのではないかと。避難用のパーソナルテントについて、購入には費用もかかるし、使用しなければ劣化するなど管理も大変などいろいろと考えているところ。行政に頼るだけでなく我々も頑張っていかなければならない。

包括支援センターの職員はとても忙しい。職員数に入らないシニアボランティアなど柔軟な対応も必要だと思う。

民生委員についてどうしていくか。民生委員と包括支援センターとのつながりは今後の重要な課題である。民生委員のなり手は年々少なくなっている状況で、我々自治会長会でも考えていかなければと思っている。

介護人材について。現在の酒田市総合計画策定時に東北公益文科大学に看護学科、介護学科の新設を自治会連合会からも要望していた。今後は庄内一円で考えていければと思う。

委員

すこやか、いきいき、しゃんしゃん元気づくりなどいろいろな通いの場があるが、同じような人が参加している。一番心配するのは参加していない人。介護サービスを受けている人は参加していない。そうした人をどうしたら参加してもらえるか悩んでいる。民生委員について、酒田は10数人欠員している状況。定年延長になり、働きながら民生委員をするのは正直きつい。研修や活動に参加が難しい。何かいい方法があれば教えていただきたい。

委員

処方箋として難しいが、今年度から来年度にかけて地域福祉計画が策定されるので、その中でも大きな議論になるだろう。

(3) 令和3年度介護保険特別会計予算(案)について(資料3)

4 その 質疑なし。

事務局	<p>今後のスケジュールについて。素案については、本日2月16日から3月7日まで保険料を除いてパブリックコメントを実施する。第1号被保険者保険料については、3月議会で条例案、審議、可決して最終決定となる。その後計画の冊子の最終ページに掲載し3月末までに計画として完成とする。例年は住民説明会を開催しているが、今回はコロナの影響もあり開催しない予定。4月1日号市広報に計画策定の大まかな内容と保険料を掲載する予定。</p> <p>お配りしたエンディングノートについて、在宅医療・介護連携支援室と協同で作成したもの。計画書の看取りのページがあるが、P.39の「一般市民に向けた普及啓発」においてエンディングノートを活用して研修や出前講座等を行っていきたい。</p>
委員	<p>配布の対象は。</p>
事務局	<p>医療機関や介護事業所等へ配布する予定。一般市民向けには講習会や出前講座を開催しながら使い方を説明したり、看取りについて考えていただく機会と合わせて配布したい。</p>
委員	<p>エンディングノートの出前講座をしてもらえるのか。</p>
事務局	<p>在宅医療に関する出前講座や講師派遣での講座、興味あればご相談願いたい。</p>
委員	<p>36コミュニティ振興会にこの出前講座を宣伝してもいいのか。</p>
事務局	<p>出前講座については、市広報に掲載している。</p>
委員	<p>エンディングノートについて、以前から市から何度か提供されたと記憶しているが、同じものと捉えてよいか。</p>
事務局	<p>基本的には同じものだが、見直しを行っている。今回は1ページ目に人生会議ということで、終末期のことも元気なうちから見据えて書き留めておいてはいかがかという内容となっている。</p>

5 閉会